

(3)2008 年度第 3 回 FD セミナー

- ・ 日時: 2008 年 11 月 21 日 (金) 16:20~17:30
- ・ 場所: 機械工学専攻 M4-201 講義室
- ・ 参加人数: 11 名
- ・ 講演

1. 鉄鋼業における技術者の役割とその育成

外山 和男(新日鐵住金ステンレス株式会社・取締役専務執行役員)

配付資料

講演スライド:「鉄鋼業における技術者の役割とその育成」

講演内容

鉄鋼業における具体的な業務内容が入社後の年数に応じてどのように変化していくかを、住友金属工業株式会社の場合を例にとり紹介した。業種別技術系社員採用実績によれば、鉄鋼業は自動車・電機業界に比べて、採用人数は少ないが、採用者一人当たりの売上高は 3~4 倍大きいことからわかるように、鉄鋼業界において採用される社員は、少数精鋭の幹部候補生として位置付けられ、ローテーションさせながら教育が行なわれている。学卒技術者に求められる能力としては、世界的視野に立ち、歴史的認識の下で自らの価値観に基づいて判断・行動する能力である。すなわち基礎学力と専門知識、コミュニケーション能力、積極性と実行力が要求される。企業内における品質検討会では、種々の部署からメンバーが集まり、議論される。その際、ある課題に対して、アプローチ方法、データ収集、調査、分析・解析、まとめ・報告などの議論が繰り返し行なわれる。一例として、新日鐵住金ステンレス株式会社の社員育成システムを紹介した。

技術者の成功体験や成長としては、若手の指導を通じての成長、自らも常に評価・査定される立場、フォアシップとリーダーシップの両立、ジョブローテーションの対象である経験、カスタマーやスポンサーへの提案、組織力の発揮、研究テーマ達成に伴う成功体験、事業環境変化への対応能力が含まれる。また、仕事におけるコミュニケーション能力としては、メンバー間の意志疎通、異分野の専門家・社外関係者・チーム長・トップマネジメントとの報告、交渉・議論が要求される。すなわち、コミュニケーション能力としては、相手を理解する能力、自分を説明する能力、相互理解に達する能力である。

最後に、企業において活躍する社員に必要な資質として、大学および大学院で教育される知識体系の修得と科学的思考、年齢・地位・職種・国籍の異なる人たちとのスムーズな意思疎通、状況に柔軟に対応する明確さ、積極性を養ってほしい旨を強調した。



外山取締役専務執行役



会場の様子